



平成 30 年 12 月 14 日

各 位

上 場 会 社 名	株 式 会 社	ミ	ロ	ク
代 表 者 名	代 表 取 締 役 社 長	弥	勒	美 彦
	(コード番号	7	9	8
	3)			
問 合 せ 先 責 任 者	取 締 役 管 理 本 部 本 部 長	古	味	俊 雄
	(TEL	0	8	8
	-	8	6	3
	-	3	3	1

「2019 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2019 年 10 月期を初年度とする 3 ヶ年のローリングを行い「2019 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2019 中期経営計画」策定の背景

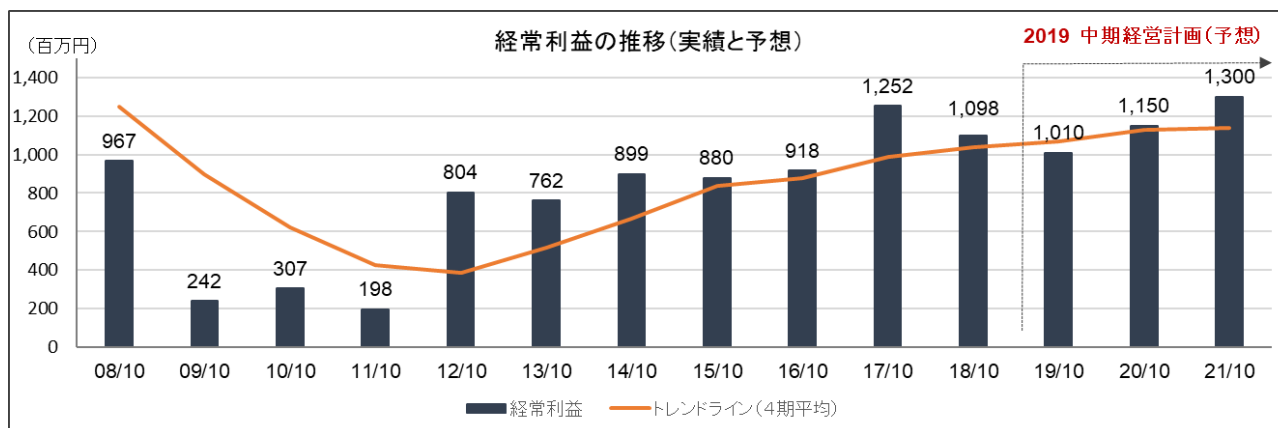
2018 年 10 月期の実績は、猟銃事業では前年度比数量減による売上減により利益も減少し、工作機械事業では継続して好調な加工部門の需要等から前年度水準の高利益を獲得し、全体としては、経常利益 1,098 百万円と、経常利益 10 億円超を稼げる事業基盤の強化は進んでいると考えております。

「2019 中期経営計画」につきましては、これまでの利益成長トレンドの維持を図りながら、収益の柱のさらなる強化を継続する期間と位置づけ、当中期経営計画を策定いたしました。

2. 「2019 中期経営計画」の基本方針

当社は昨年度より、ミロクグループの長期ビジョンとして「主力三事業の強みを活かし、向上させ、かつ新たな事業を創出することで盤石の経営基盤を築き、今後も成長し続ける企業グループを目指す」を掲げ、その実現に向けたマイルストーンとして中期経営計画を策定しております。「2019 中期経営計画」としましては、製品及びサービスにおいて競合他社と差別化を図り、引き続き収益性及び需要変化への対応力を意識した収益基盤の構築、教育とコミュニケーションの強化を通じて次代を担う人材の育成と活性化を図る、を基本戦略として日々精進してまいります。

猟銃事業につきましては、高水準の米国景気による顧客の購買意欲を満足・喚起させる高付加価値銃をタイムリーに市場に投入するとともに、競合他社の真似できない多品種少量の生産体制を構築してまいります。また工作機械事業では、加工部門を収益の柱と位置づけ、営業力を強化して販売機会の増大を図り、自動車関連事業では、木製ステアリングハンドルとその加飾技術製品の販売促進により、売上高の拡大を推進し、主力三事業で計画の達成に邁進いたします。



3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

主力の米国市場は、在庫過多の状況を脱し、好景気を背景に右肩上がりの情勢にあり、政治的な不安要素はありながらも中長期的にもこの傾向は続き、低調な欧州市場をカバーしていくものと思われま。加えて、上下二連銃と並ぶ主力製品であるボルトアクションライフルの堅調な需要は当面続くと思われ、この好機を逸すること無く、タイムリーに当該新仕様品を市場投入することに注力してまいります。

当社最大顧客であるブローニンググループは、幅広い価格帯の製品を揃え市場占有率拡大という成長戦略を掲げており、当社としましては、さらなる利益創出のため工程の自動化、ロボット化を通じて生産効率の改善を図り、両社のコミュニケーションの向上により開発力・提案力を強化していきたいと考えます。また、2008年、2012年に市場投入し成功を収めたボルトアクションライフル、上下二連銃の後継機種の開発にも経営資源を投入し、早期の製品化に取り組んでまいります。あわせて国内販売も強化し、利益獲得に向けて精進いたします。

② 工作機械事業

主力のガンドリルマシンについては、中国特需の影響で工作機械の主要部品が品薄状態となり、そのため先行しての注文が増加していますが、必然的にガンドリルマシンの納期リードタイムも長期化が余儀なくされ、飛躍的な売上増には繋がっておりません。このような環境のもと、加工部門を収益の柱として、全国4拠点の加工工場の稼働率向上により収益の増大を図ってまいります。さらには、3年先、4年先を見据えて、広範囲の需要を漏れなく取り込むため、立地等を勘案し新拠点を検討してまいります。且つ、営業力強化により加工部門の顧客を通じて機械部門等への展開を進めるとともに、リピート率の高いユーザーのあらゆる径の深穴明けニーズに対応してまいります。引き続き全社的に原価低減を推進し、売上高及び利益の拡大に努めてまいります。

③ 自動車関連事業

2018年10月期は、従来の純木製に部分ウッドを加えた木製ステアリングハンドルは、5期ぶりの増収に、3Dドライ転写ステアリングハンドルと全周革ステアリングハンドルの増収が加わり、全体として売上高は大幅な増加に転じました。今後も、木製ステアリングハンドルを事業の柱として売上高増大を目指します。

また、デザイントレンドの変化や顧客の要求性能の多様化に適時的確に対応し、開発提案力を強化し、市場競争力の高いステアリングハンドルを世に送り出していきます。あわせて、意欲あふれる自立した人材育成を模索し、2018年9月に発売された高級竹製ヘッドフォンのような自動車以外の木製品等の案件開拓活動も引き続き進めてまいります。当然ながら、原価低減を推進し、中期的な売上高拡大と利益確保に努めてまいります。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2018/10期 実績	2019/10期 予想	2020/10期 予想	2021/10期 予想	(ご参考：過去最高益) 2005/10期(実績)
売上高	13,509	14,400	14,700	15,200	15,396
営業利益	954	860	1,000	1,150	1,361
経常利益	1,098	1,010	1,150	1,300	1,641
親会社株主に 帰属する当期純利益	817	740	770	870	1,028

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上